

## 資料 2

# 【議事 2】 医療依存度の高い 在宅重症難病患者の災害時対策

# 【大目標5】 災害時に身の安全が確保される

## 目標

- (1) 関係機関が災害時対策に関する地域の状況や資源を把握し、支援に繋げることができる
- (2) 家族が災害時の対応を知っている

# R 7年度の取り組み計画

- 中長期的な目標を決めて支援者に必要な研修会を計画・実施
- 災害時の医療機関への入院に関する協定のワーキング会議の定期開催
- 災害時の医療機関への入院に関する協定のマニュアルの活用と精査
- 電源が必要な難病患者の災害時の受け入れ先の拡充に向けて、庁内・医療機関で検討する
- 災害時の人工呼吸器装着者等の安否確認や医療機関への避難入院調整についてのマニュアル化

# 地域支援研修会（R7年11月8日）

大目標5 災害時に身の安全が確保される

講演： 「医療機器を使用する児・者の災害準備  
～支援者が明日からできること～」  
豊橋創造大学 保健医療学部看護学科 今福 恵子 先生

意見交換： 災害対策について日々事業所で取り組んでいること  
明日から取り組めること

対象者： 訪問看護事業所、訪問介護事業所、相談支援事業所  
居宅介護支援事業所、医療機関 等

参加人数： 30人

参加者の感想： 「他の事業所と話しができて、事例を知れたことが良かった」  
「実際にシュミレーションをしてみたい」  
「自助に繋がられるようなサポートの大切さを知る機会になった」

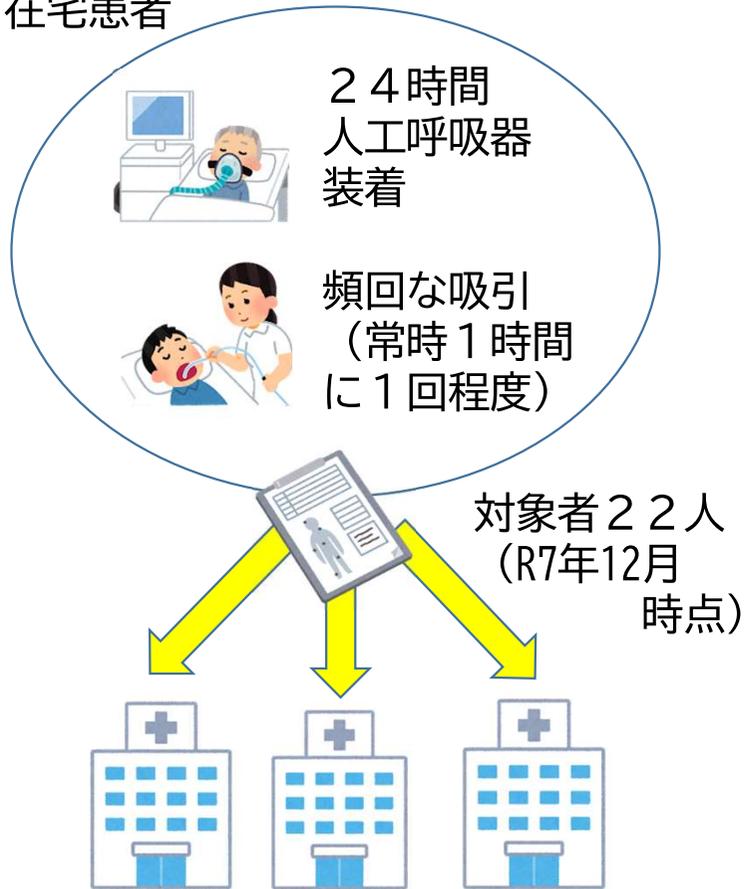


# 「災害時における療養介護事業所のある医療機関への入院に関する協定」について

## ●医療機関との会議 1回実施（R7年7月10日）

※今年度中にあと1回実施予定

在宅患者



### <結果>

- ・24時間在宅人工呼吸器患者全数を送付次第、頻回な吸引患者の情報を送付することで決定。
- ・対象者の情報シートの内容を年1回一斉更新する。更新時期は毎年12月で合意。
- ・今後、受け入れ時に実用的活用できるようにするため、情報シートのレイアウト変更等を行っていく。

## ●対象患者22人分の情報提供

- ・R6年度情報提供者（7人）のシート更新
- ・R7年度新規対象者の情報提供（12人）

※R7年12月末時点

# 停電時における在宅医療機器使用患者への 電源確保協力に関するアンケート調査

目的：災害時等に停電が発生した際、電源確保ができ、療養生活を継続できるように、市内の病院における災害時の体制や非常時の電源提供可能な機関を調査する。

調査先：奈良市内の病院 計19病院

(奈良医療センター、東大寺福祉療育病院、バルツァ・ゴードルを除く)

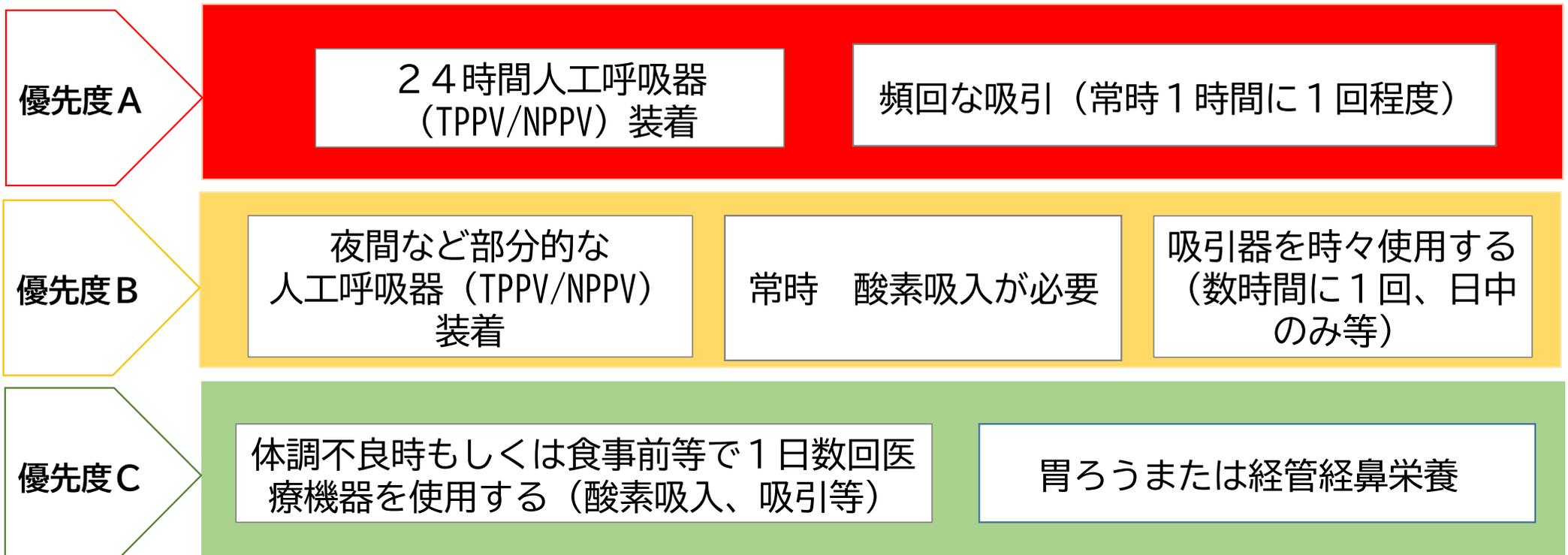


実施方法：奈良市在宅医療・介護連携支援センターを通して配付

# 災害時に支援が必要な患者への個別支援

大目標5 災害時に身の安全が確保される

## ●優先区分表に基づいた安否確認対象者のリスト化 (医療機器使用者等災害時用個人情報リスト)



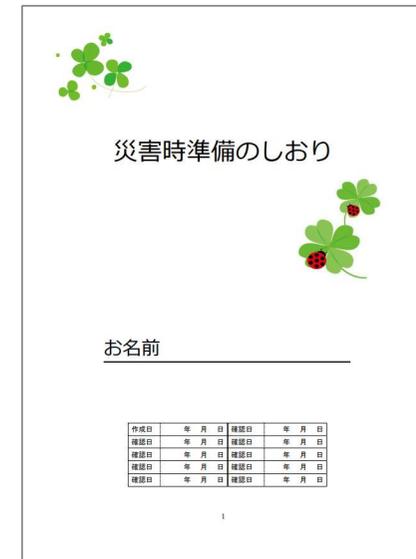
※家庭環境 (独居であるか) や身体状況 (自力移動可能か) も考慮して優先順位づけ

# 災害時に支援が必要な患者への個別支援

大目標5 災害時に身の安全が確保される

## ● 「医療機器使用者等災害時用個人情報シート」の作成

- ・ 訪問で生活状況について把握。
- ・ 初回訪問者へは災害準備のしおりを用いて自助の備えを啓発。
- ・ シートを関係機関と共有。
- ・ ケースを通したシュミレーションの実施は今後の課題。



## ● 庁内安否確認マニュアルの作成

- ・ 安否確認を担当保健師以外でも実施できるように、医療機器使用者等災害時用個人情報リストの管理場所や安否確認事項を明記。
- ・ M C S（メディカルケアステーション）や災害用伝言ダイヤル171を活用する。

# 課題【大目標5】

- 災害時の関係機関との連携方法など具体的な計画が検討できていない。
- 災害時に医療機器使用者の医療機器や電源を給電できる場所が検討できていない。

## R 8年度の取り組み計画【大目標5】（案）

- 災害時の円滑な情報共有に向けてMCSの患者支援グループの活用を推進する。
- 市内病院への電源確保に関するアンケート調査をもとに災害体制整備をすすめる。
- 庁内担当課と保健衛生部門で災害対策の庁内体制について検討する。